

利用・用途・応用分野

急性呼吸促拍症候群(ARDS)の予防及び治療

目的・課題

急性呼吸促拍症候群(ARDS)は、激しい好中球浸潤と肺胞の広範傷害が特徴で、発症後の死亡率は50%を超えており、有効な治療法が確立されていない。

ARDSより重篤な症状を示す呼吸促拍症候群を劇症型急性呼吸促拍症候群(FARDS)という。

鳥インフルエンザのヒトへの感染は高い感染致死率を示し、主な死因はウイルス感染によるFARDSであり、治療法の確立は急務の課題である。劇症型急性肺炎の予防及び治療に有効な手段の提供を課題とする。

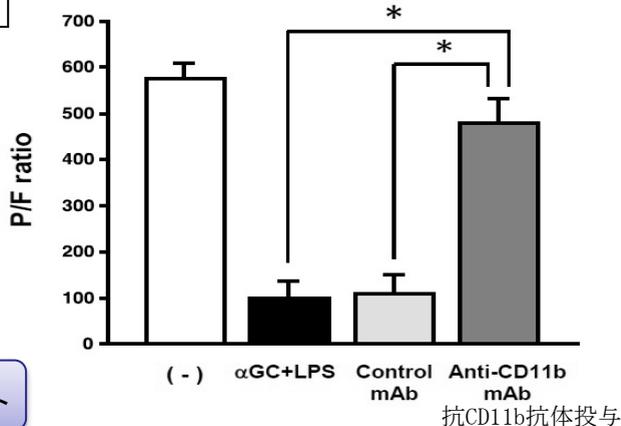
解決ポイント

抗CD11b抗体投与により、劇症型急性肺炎(FARDS)が劇的に抑制されることを見出した。CD11b分子が難治性炎症疾患であるARDS/FARDSの新規治療法のターゲット分子になり得ることが明らかとなった。

免疫炎症細胞、例えば好中球におけるCD11bの発現や機能を抑制することにより、FARDSの治療が可能となる。

【CD11bアンタゴニスト】CD11b分子にCD11bのリガンドが結合することによりCD11b分子を介した細胞内の情報伝達系機能を抑制し、該リガンドによる細胞の活性発現を妨げる物質【アンタゴニスト】拮抗薬、拮抗剤、遮断薬

※マウスFARDSモデルにて
P/F比の低下は、抗CD11b抗体を
FARDS発症前に投与することで
著しく改善される



研究概要・アピールポイント

- ◆CD11bアンタゴニスト例えば抗CD11b抗体を含む劇症型急性肺炎の予防、治療用医薬組成物、肺胞内の好中球凝集抑制剤、肺の好中球浸潤抑制剤、CD11bアンタゴニストを含む劇症型急性肺炎の予防剤・治療剤を提供できる。
- ◆抗CD11b抗体医薬品等の開発は、集中治療室等で人工呼吸を受ける患者や高病原性鳥インフルエンザ感染で発症する劇症型急性肺炎の治療に有効な治療法となる。

◆ お問合せ先 ◆

有限会社山口ティール・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail:tlojim@yamaguchi-u.ac.jp